

Global studies第4号： 表紙,執筆要綱,執筆者一覧,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1191

GLOBAL STUDIES

グローバルスタディーズ

4

2020

研究論文

- 1 世界大学ランキングにおける比較可能性と客観的公平性 —「THE 世界大学ランキング」を中心に— 示村 陽一
- 13 留学生に対する日本語学習カウンセリングの意義と課題：その3 —学習カウンセリング報告の分析から—
— 堀井 恵子・天坂 華織・平井 君代
- 29 日華学堂の宿舍生活における管理と外出 — 樂 殿武
- 47 国内多文化チームにおける日本人リーダーの認知的志向性の継承モデル — 石黒 武人
- 61 留学生に対する音声教材を用いた議事録作成指導の効果 — 向山 陽子
- 75 胡適の実験主義の原点 —「学原于思」の幼少時代をめぐって— 劉 紅

レビュー論文

- 93 終助詞のコミュニケーション機能の分類と日本語学習者を対象にした終助詞に関する研究概観 — 鄭 穎

研究ノート

- 113 ハリウッド映画におけるアジア人の表象 — 有江 和美

調査報告

- 127 非意図的な出来事に対する日中母語話者の事態認識について — 黄 健敏



世界の幸せをカタチにする。

Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

武蔵野大学 グローバルスタディーズ研究所紀要 Global Studies 執筆要領

1. 投稿資格

グローバルスタディーズ研究所の研究員及び客員研究員、科目担当教員（大学院言語文化研究科、グローバル学部、グローバル・コミュニケーション学部（非常勤講師を含む））、大学院言語文化研究科の大学院生及び修了生とする。また、以下のいずれかに該当する者は、グローバルスタディーズ紀要編集委員会で認めた場合に限り投稿することができる。

(1) 本研究センター専任教員と共同研究に従事する者

(2) 紀要編集委員会が特別に依頼した者

原稿は未発表のもので、1人1編とする。共同研究の場合は1人2編までとするが、筆頭者としては1編しか投稿できない。

2. 使用言語

日本語、英語、中国語のいずれかとする。

3. 原稿作成上の注意

(1) 原稿の様式と分量

原稿はワープロ横書きの Word 文書で作成する。

分量は、日本語・中国語原稿の場合は A4 用紙 43 字×40 行で、20000 字以内（12 枚程度）とする（注、参考文献、図表を含む）。

余白は上 35mm、下、左、右とも 30mm（Word の規定値）とする。

英語原稿の場合は、A4 用紙（または国際版タイプ用紙 216 × 290mm）36 枚以内（刷り上がり約 12 枚、注、参考文献、図表を含む）とする。

(2) 表記法（日本語）

①日本語は常用漢字、現代仮名遣いを原則とする。

②数字は原則として半角アラビア数字とする。ただし、「一切」「四半世紀」などの熟語、成句、固有名詞に限って漢数字を使用する。

③句読点は「、」「。」を使用する。

④句読点、「」、（ ）は全角で使用する。

(3) 論文タイトルおよびサブタイトル

日本語原稿には日本語タイトルの下に英語タイトルを入れる。英語原稿・中国語原稿にはそれぞれの言語のタイトルの下に日本語タイトルを入れる。

(4) キーワード

キーワードは5語以内とし、論文タイトル、氏名の下に記載する。

(5) 注

注は本文中に上付添字で1)2)3)…と通し番号で示し、原稿末尾の参考文献の前にまとめる。ワードの脚注機能は使用しない。

(6) 参考文献

参考文献は原稿末尾にまとめる。以下の書式で統一する。

①英文書籍

Ellis, Rod (2003) *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford: Oxford University Press.

②英文論文

Langacker, Ronald W. (2006) "On the continuous debate about discreteness", *Cognitive Linguistics* 17: 107-151.

③和文書籍

加藤周一 (2007) 『日本文化における時間と空間』 岩波書店

④和文論文

杉山洋介 (2009) 「百科事典的意味観」『認知言語学論考』 No.9: 1-38 ひつじ書房

4. 抜刷りについて

抜刷りは一論文に対して 30 部とする。それ以上を希望する場合は実費自己負担とする。

5. 原稿提出期日他スケジュール

年 1 回、委員会の定める期日までに提出する。

6. 原稿提出方法及び提出先

原稿は、武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会 (gs_edit@musashino-u.ac.jp) 宛に、電子データをメールにて提出する。

7. 提出原稿の校正

著者校正は 2 回までとする。校正段階での原稿の大幅な訂正、加筆、削除は控える。

執筆者一覧 (掲載順)

【研究論文】

示村陽一	Yoichi Shimemura	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科教授
堀井恵子	Keiko Horii	グローバル学部日本語コミュニケーション学科教授
天坂華織	Kaori Tensaka	グローバル学部非常勤講師
平井君代	Kimiyo Hirai	グローバル学部非常勤講師
欒殿武	Hirotake Ran	グローバル学部グローバルビジネス学科教授
石黒武人	Taketo Ishiguro	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科准教授
向山陽子	Yoko Mukoyama	グローバル学部日本語コミュニケーション学科教授
劉紅	Liu Hong	グローバル学部非常勤講師

【レビュー論文】

鄭穎	Ying Zheng	言語文化研究科言語文化コース大学院生
----	------------	--------------------

【研究ノート】

有江和美	Kazumi Arie	グローバル学部非常勤講師
------	-------------	--------------

【調査報告】

黄健敏	Huang Jianmin	言語文化研究科言語文化コース大学院生
-----	---------------	--------------------

Global Studies 第4号

2020年3月1日発行

編集 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会

発行 武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

〒135-8181 東京都江東区有明3-3-3

電話 03-5530-7312

印刷 株式会社 創文

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町13-1

電話 03-5643-3321

GLOBAL STUDIES

4
2020

RESEARCH PAPER

- 1 THE World University Rankings :Its Comparative Capability and Objective Equitability —— Yoichi Shimemura
- 13 The Significance and Issues on Japanese Study Counseling For International Students:Part3
—From analysis of study counseling report —— Keiko Horii / Kaori Tensaka / Kimiyo Hirai
- 29 Management of the Nika School dormitory and a Leisurely walk described in the Nika School diary —— Hirotake Ran
- 47 A Model for Supporting the Succession of Japanese Leaders' Cognitive Orientation
in Multicultural Teams Based in Japan —— Taketo Ishiguro
- 61 Teaching Foreign Students to Take Minutes of Meetings
: Effectiveness of using Audio Teaching Materials —— Yoko Mukoyama
- 75 The Origins of Hu Shih's Pragmatism "Learning Originates from Thinking" in His Childhood —— Liu Hong

REVIEW PAPER

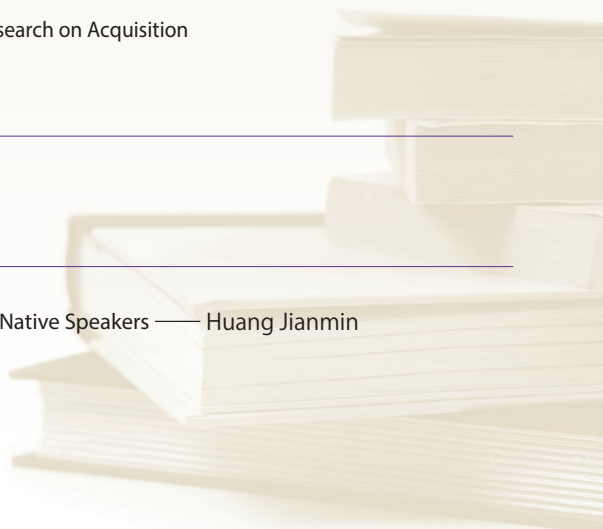
- 93 An Overview of Studies of Japanese Sentence Final Particles and Research on Acquisition
of Those Particles by Learners of Japanese —— Ying Zheng

RESEARCH NOTE

- 113 The Depiction of Asians in Hollywood Films —— Kazumi Arie

RESEARCH REPORT

- 127 Recognition of Non-intentional Events of Japanese and Chinese Native Speakers —— Huang Jianmin



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University's Institute for Global Studies